

体験談 2 -

飲酒運転事故による記憶障害からの回復

N.F.

（札幌琴似断酒会会員 20 代男性）

自分は、今から数年前に飲酒による交通事故を起こし、身体的な障害だけでなく、その前後の記憶を失い、記憶障害にもなっていました。ただその記憶を取り戻そうと思うわけでもなく、その内思い出さだろうと、気楽に構えていました。

交通事故後に『身体障害者の何割かはアルコール依存症』というような新聞記事を見つけました。それを自分の都合の良いように解釈し、酒を飲む言い訳にしていました。「自分以外の人たちが依存症になるぐらいなのだから、自分も飲んだっていいじゃないか」という気持ちを持っていました。それから数年間は、そのように過ごし記憶障害のことも気にしていませんでした。

昨年、アルコールの問題で札幌太田病院に入院することになりました。入院当初は、ただ入院させられ、早く退院したいがために医師や看護師の言う通りにしていればいいと考えていました。内観も同様です。また、自分は事故のために昔のことを思い出すことなどできないと思い、それを面接者にも伝えていました。しかし少しずつ取り組むよう促され、内観に入ったことを覚えています。やはり初日から 3 日目ぐらいは思い出すのが難しく、また苦しい思いもしました。それが、次第に幼い頃の父母や兄弟と遊んだこと、キャンプに行ったことなどがどんどん思い出され、記憶が蘇ってきました。そして自分がどれだけ家族に愛されているかを知ることが出来ました。思えば入院当初は『自分はアル中ではないことを先生や母親に証明してやろう』と考え、アルコール依存症であることを認めていませんでした。さらに入院が決まった時は「俺は家族から捨てられた」とさえ思っていました。ところが、この集中内観を通して、自分は子どもの頃から入院するまでずっと愛されてきたということを思い出し、その時は本当に涙が止まりませんでした。

記憶障害はまだ完全に回復したわけではありませんが、少しずつ失った記憶を取り戻しています。全部が良い思い出ではなく、事故を起こした瞬間が頭をよぎると、恐ろしい思いもします。それでも今はその時のショックや自分が抱えている問題にも、向き合うことができ、酒に頼ることもありません。デイケアスタッフ、メンバー、断酒会でお世話になっている方々に力を貸して頂き、またずっとそばにいてくれる家族に元気をもらいながら、これからは少しずつでいいから『前』へ進んでいきたいと思っています。このような気持ち、考えを持てるようになったのも、入院そして内観のおかげだと思えます。